

光市次世代育成支援行動計画

「ひかりっ子未来プラン」がまじまりました



親子でふれあい、元気な声や楽しそうな笑い声があがっています。
(野原保育園の「親子DEゲーム」での一コマ)

子どもと家庭を取り巻く環境は、核家族化や共働き家庭の増加など、さまざまな要因によって変化しており、特に少子化は深刻な問題となっています。合計特殊出生率()は下降し続け、平成15年には1.29というきわめて低い数値となっています。

こうした状況を踏まえ、光市では、平成10年3月に策定した光市エンゼルプランにより、子どもを健やかに生み育てることのできる環境づくりを進めてきましたが、このたび、新しい指針として、光市次世代育成支援行動計画「ひかりっ子未来プラン」を策定しました。

市では、今後、このプランに基づき、病後児保育やファミリー・サポート・センター、児童虐待の未然防止・早期対応などにも取り組み、新たな子育て環境づくりを目指すことにしています。

目標

本プランの目標は、光市エンゼルプランと第二次光市母子保健計画の考え方や、新市建設計画の新市将来像を踏まえ、次のとおりとしました。

「子ども子育てにやさしい和のまち光をめざして」

期間

本プランの期間は、平成17年度から平成21年度までの5年間です。なお、本プランは前期計画であり、終了するまでに必要な見直しを行ったうえで、平成22年度から、新たに5年を期間とする後期行動計画を策定する予定です。

合計特殊出生率：1人の女性が一生の間に生む子どもの数に相当。人口を維持するには2.08が必要とされる。

基本理念と主な施策

本プランの最も基本的な考え方となる3つの基本理念と、それに伴う主な施策は次のとおりです。

基本理念1 保護者が子育てに楽しみを感じながら、責任をもって子どもを生み育てられるまち

チャイベビステーションの充実
あいはく光にある子育て支援センター「チャイベビステーション」をもっと利用しやすくなるよう、開所時間の延長について検討します。親同士・子同士の交流場づくり
空き店舗や公共施設の空きスペースなどで、子どもと保護者が自由に集まって遊んだり雑談したりできる「つどいの広場」の設置について検討

討します。

おっぱい育児の推進

すべての人が赤ちゃんを胸(おっぱい)でしっかりと抱きしめて育てる「おっぱい育児」をひろめます。また、親子のふれあいや母性・父性の育成、子どもの健康などをテーマにした「おっぱいまつり」を引き続き開催します。

基本理念2 次代を担う子どもたちが、自ら育つ力を育むまち

母と子の健康
子どもの成長の節目に健康診査を行います。また、その結果に応じて心理相談を勧めたり発達を支援する「のびのび学級」を開くなど、適切にフォローを実施します。

成長する子どもたちが心・身体・命を大切にすることを育み、「子どもを育てること」に対する認識を深めるよう、思春期の児童生徒を対象に、乳幼児とのふれあい事業や性教育に関する講演会などを行います。

食育の推進(新規事業)
子どもの食と密接に関わる保育所・幼稚園・学校など各機関が子どもの成長に応じた食教育・食指導を充実させ、「食が命を育む」という理解を深めるとともに、地域の子育て家庭を支援します。

基本理念3 地域がやさしく見守り、子どもと子育てを社会全体で支えるまち

特別保育の充実(事業拡大)
18時以降も開所する延長保育を、市内全国で実施します。

病後児保育(新規事業)
病気の回復期で通園・通学できない子どもを預かる病後児保育を実施します。

ファミリー・サポート・センター(新規事業)
短時間の子どもの預かりや保育施設への送り迎えなどを援助する「ファミリー・サポート・センター」を設置します。

児童虐待の未然防止・早期対応(事業拡大)

児童虐待防止ネットワークを設置して、虐待の未然防止や早期発見を図ります。また、児童虐待防止マニュアルを作成し、学校や病院など関係機関へ配布して虐待の早期対応を図ります。

プランの推進にあたって

本プランを進めるにあたって、光市次世代育成支援行動計画策定懇話会を継続して設置し、定期的にプランの達成状況をチェックします。

プランの全文は、市役所や各出張所・公民館で閲覧できます。

問合せ 社会課児童家庭係0833(74)3005

「ひかりっ子未来プラン」策定の経緯

